

2020 年度の取組み

かながわボランティア活動推進基金 2 1 協働事業負担金対象事業

事業名	「食」と「地域」をつなぎ神奈川から貧困をなくすための K-Model 構築事業
団体名	特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川
県協働部署名	福祉子どもみらい局子どもみらい部次世代育成課 福祉子どもみらい局子どもみらい部子ども家庭課 福祉子どもみらい局福祉部生活援護課 県土整備局建築住宅部住宅計画課 環境農政局環境部資源循環推進課 くらし安全防災局くらし安全部消費生活課
事業期間	令和 2 年 4 月 1 日 ～ 令和 3 年 3 月 31 日

事業 1	事業 1 多機関連携による K-Model 推進事業
(1) 目標	生活困窮者等支援と食品ロスを改善するため「食」と「地域」をつなげるネットワークをつくり、持続可能な食品循環の仕組みを構築する。
(2) 実績	<p>◆K-Model ネットワークづくり</p> <p>【ネットワークづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野口食品より、新規に開発したアレルギー対応のこども用防災備蓄品（レトルト）の販売、企業への PR の場づくりについて相談受理。今後、子ども支援や子どもの居場所を運営する団体や企業などで防災備蓄品として活用できないか、サンプルを頂き、協力団体横浜岡田屋に紹介。 ・横浜信用金庫本店より紹介があり、武松商事株式会社代表と懇談を実施。今後ビーバーリンクの活動の多面的な支援として金沢地区のファクトリーの活動提案、若者やひとり親の就労など連携をすすめている。 ・県立横浜緑ヶ丘高校の課外授業対応。同校の教員より問い合わせがあり、「食品ロス」に関する課外授業の運営協力を行った。4 回連続講座のうち 1 日程で、食品ロス削減に関する社会活動や法人の取組みについて講義。体験授業としてフードバンクかながわでの講義見学を実施した。 ・マスク寄贈の取組み。パルシステム神奈川ゆめコープ役職員より寄贈されたマスクを、フードバンクかながわ、ビーバーリンクを通じ子ども食堂へ寄付した。1,400 枚のマスクが寄せられ、こども用、大人用のサイズ別に分けて梱包。フードバンクかながわや、セカンドリーグ神奈川の支援企画、ビーバーリンク参加の子ども食堂などを通じ、約 30 団体を通じ必要な方へ届けた。 ・横浜市こども青少年局より紹介があり、横浜市農業振興課の企画の野菜 100 キロの提供の情報をもらい、子ども食堂関係に引き渡しをコーディネートする。 ・ひとり親への情報提供として、WEB を通じコミュニティをつくっている「WACCA」と情報交換を実施。案内チラシをがんばるママ交流会や子ども食堂等へ配付。 ・横浜市農業振興課主催「食と農の祭典」が開催され、展示されていた地場野菜の宝船に掲載された野菜 100 キロの引取りを実施した。食支援ネットワークかながわの協力により、3 つの支援団体に提供した。 ・武松商事、三井アウトレットパーク、NPO ハマノトウダイ、食支援ネットワークかながわと三井アウトレットパークにて顔合わせと現地視察を実施した。当法人のビーバーリンクの運営での費用を連携することで生み出す仕組みを新たに検討し、実験的に取り組む。1 月末頃を予定したが、緊急事態宣言、および延長により、3 月 27 日に開催。 ・武松商事より紹介のホテル、ニュージーランドからのアメニティの活用相談があった。実際コロナの影響により数量は減少しているとのことだ

が、継続的な提供を視野に入れてもらって、活用をコーディネートし、11月シャンプー、リンス等を12箱提供いただき、ビーバーリンクで活用した。

- ・横浜信用金庫より企業紹介として、アビックス株式会社に出法人について説明を予定され、現在取り組んでいる資料などを提供した。また横浜信金がWEBを活用した企業間のマッチングシステムを運営しており、その登録へのお誘いだけでなく、現在食品ロスのマッチングシステムへのアドバイスも含めて説明いただいた。
- ・金沢こども食堂すくすくから、駿河屋本舗の冷凍コロケの活用について相談頂き、ビーバーリンク拠点での活用を提案、物流面での状況から、配送費を負担頂き、4か所への納品をお願いした。その後2月にも追加の提供の相談で、合わせて受け取らせていただいた。総数10,800個の提供をいただき、3月ビーバーリンクで配布した。
- ・フードバンクかながわより紹介で、JA神奈川県中央会よりこども食堂用に製造したチルドのハンバーグ（石井食品）を提供したいとの相談をいただき、コーディネートを実施。2月17日ビーバーリンク鶴見で配布。残りを報徳食品支援センター（ビーバーリンク平塚）にて活用した。
- ・JA神奈川県中央会より、次回より直接石井食品と連携して欲しいとのことで、こども食堂向けのハンバーグの製造を検討されている旨を伺い、引取り、配送については別途対応することとなった。
- ・食支援ネットかながわより、南区睦町地域ケアプラザを紹介され、睦町地区で活動するこども食堂や障がい者の支援活動の相談をいただいた。来年4月よりビーバーリンク睦町として青果や冷凍品を提供する。
- ・相鉄ビジネスサービスより、防災備蓄品の提供の案内、キリンビールより保存水の提供の案内など、これまで実績のある企業から随時提供の案内をいただいている。

【県協働部署・関連部署との連携】

- ・6月に次世代育成課から、(一社)Jミルクが医療福祉施設等に牛乳等を無償提供する取り組みについて紹介を受けた。
- ・11月に次世代育成課から、同課が実施する神奈川県子ども食堂応援事業（第4期）の募集開始について紹介を受けた。
- ・昨年度、資源循環推進課の紹介により、農林水産省の令和2年度農山漁村6次産業化対策事業補助金「フードバンク活動マッチング支援事業」を受託。
- ・資源循環推進課にこれまでの経過の説明および、農水省事業の連携で、マッチングシステム構築の今年度の取組について説明を行った。
- ・未利用品活用のマッチングシステム構築報告では、資源循環推進課より、今後の要望と期待についてコメントを頂いた。
- ・消費生活課の消費者月間の取組として、5月及び10月に当法人のビーバーリンクの取組みがSNSを活用してアップされた。当法人のフェイスブックでもシェアをして広報協力を実施した。
- ・消費生活課の県民への学習会等の対応団体として登録した。県HPに掲載された。
- ・ひとり親支援として、「がんばるママ交流会」を県WEBサイト「カナ・カモミール」への掲載を依頼。子ども家庭課と連携し、進めていく。
- ・子ども家庭課が実施する児童虐待・DV防止の取組みに対し、協力要請があった。LINE相談周知カードやDVまんがを、当法人関連施設や支援団体等に配付。相談窓口の周知や気づきの機会提供を図る。
- ・住宅計画課管轄の空き家対策行政実務者会議が資料提供での実施となり、茅ヶ崎南湖の物件の進捗状況をデータで報告した。8月中旬に市町村担当者にメールにて配付された。
- ・空き家対策行政実務者会議での資料報告をもとに、川崎市まちづくり局住宅政策部住宅整備推進課より、茅ヶ崎市都市政策課に、茅ヶ崎南湖の物件視察と取組み内容について問合せがあり、経過説明と運営上の工夫

	<p>などの説明対応を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茅ヶ崎南湖の物件に関して、自治会関連やコロナ対策関連等、茅ヶ崎市都市計画課に必要に応じ相談を行っている。 ・3月に住宅計画課管轄の空き家対策行政実務者会議において、南湖の取組み内容を、令和2年12月に実施した住宅計画課職員の現地視察の内容も含めて報告した。 ・生活援護課に問い合わせがあった、綾瀬市内の学校関係者から小学生の衣類・学用品を必要との問合せに対応。パルシステム神奈川の職員・協力会社社員の協力により、小学生用の衣類1,200点、ピアノカやランドセル、文具などの学用品177点が集まった。綾瀬市健康づくりプラザにて市健康こども部健康づくり推進課が受取り、必要としている家庭に配付することとなった。7月27日に搬入済。 ・生活援護課よりいただいた自立支援窓口の案内チラシを子ども食堂等を通じて配付。 ・新型コロナウイルス感染症（以下コロナ）に関する取組として、県が勧める「感染防止対策取組書」に、当法人が施設管理するコミュニティスペース「ふらっとパル茅ヶ崎」で登録した。 ・神奈川県災害対策課より、防災備蓄品の活用の相談があり、県内の施設35か所46部署に保管されている缶入りパン16,875個の引取り及び活用のマッチングが8月27日完了した。 ・同災害対策課より、アルファ米、乾パン、クラッカーのマッチングの追加依頼があり、9月、10月と対応した。 ・茅ヶ崎市こども支援課より、茅ヶ崎市のこども食堂の支援について相談いただいた。ビーバーリンクの周知や支援体制の説明などの要望があり、今後状況に合わせて対応する。
<p>(3)実績・成果に対する評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響により、5月までビーバーリンクを休止したが、食品提供の要望が強く、また各子ども食堂の自発的な協力もあり、6月より再開、利用したい団体、食品提供したい団体も増え、着実にビーバーリンクを通じ、食支援のネットワークが広がった。また、各団体で顔の見える関係ができ、相互に協力する体制ができた。提供される食品のロスや配送コストを減少させることができ、各団体の負担が減った。 ・協働部署との連携は、イベントや会議が中止、またはWEBでの実施になったものの、各課が持つ課題に対し対応することができた。現場として、広報の実施や子ども食堂の状況やひとり親家庭の状況をお伝えするなど、中間支援としての役割を果たすことができた。 ・広報活動については企画イベントが中止になったものの、WEBや子ども食堂などの現場、企業間の紹介などを通じ、必要な方に必要な情報をお伝えすることができた。こども食堂の活動が食品提供と変化していることへの対応ができ、継続して支援が必要な方への食品提供ができた。

事業2	事業2 地域フードバンク等支援事業
<p>(1)目標</p>	<p>企業が安心して地域フードバンクや子ども食堂に食品を提供できるように周知を図るとともに、地域フードバンク等の運営に必要な情報提供や中間支援を行う。</p>
<p>(2)実績</p>	<p>【食品コーディネーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふらっとパル茅ヶ崎に移送した、横浜岡田屋よりサンシティみなとみらいから防災バッグ200パック、備蓄水は、フードバンクひらつか、NPOサポートちがさき、茅ヶ崎高校（全日、定時）湘南つばさの家、さいとうさんち（こども食堂）等で活用いただいた。 ・食支援ネットと支えあいの会（横浜市西区）と共催で、食品提供の企画を開催、7月11日より毎月1回実施する。食品の提供を行う。 ・東京都町田でこども食堂を運営している方より相談、食品の希望があり、フードバンクあつぎを紹介した。

- ・川崎市中原区のこども食堂（2か所）から食品希望相談があり、フードバンクかながわを紹介した。
- ・神奈川県災害対策課より、防災備蓄品の活用の相談があり、県内の施設35か所46部署に保管されている缶入りパン16,875個の引取り及び活用のマッチングが8月27日完了した。
- ・ビーバーリンクの活動は、コロナの影響により4月～5月は休止。6月より感染対策を徹底し再開した。また各子ども食堂は、お弁当の配付やフードパントリーに活動を切り替えており、個々の状況に応じ、食品支援や寄付されたマスクの提供を行った。
- ・ビーバーリンクの運営協力団体：パルシステム、(株)野口食品、ヴェステイ・フーズ・ジャパン(株)、横浜信用金庫末吉支店、(株)加瀬倉庫、ニッコー(株)、(株)一蘭、(株)横浜岡田屋、(株)湘南オフィス・サービス、(一社)食品ロス・リポーンセンターが関わっている。

(各ビーバーリンクの状況)

- ①ビーバーリンク@武蔵新城：ひとり親支援は緊急事態宣言中、宅急便による個別支援を実施。6月28日再開。県WEBサイト「カナ・カモミール」掲載により、新規3名の応募があった。1月からの緊急事態宣言には、メサグランデに協力いただき、開店時間に食品の引き渡しのみを実施した。3月は交流会を再開。年間を通じひとり親交流会は10回実施、延べ85組が参加した。
他、めさみーるプラス、てらこみーる、若者カフェ in ここにわが1回目の緊急事態宣言後、状況を見ながら活動を再開している。(4団体)
- ②ビーバーリンク@桜木町：6月から再開、8月夏休み期間も引き続き参加者が増えている。以降も持ち帰り食品を基本として活動を行っている。
- ③ビーバーリンク@鶴見として、5月20日、6月17日、8月19日実施。駒岡丘の上こども食堂（鶴見区）、なまむぎこども食堂（鶴見区）、学習支援まなひろ（相談中・鶴見区）、サードプレイス（鶴見区）、つるみ元気塾（鶴見区）、ABCジャパン（鶴見区）の6団体が登録され利用中。サードプレイスが運営している230カフェを訪問、おなかも食堂の運営状況について確認した。9月からは4団体の実利用となり、システムづくりのエントリーや数量入力の実証実験の協力をいただいた。また、鶴見にある冷凍品の引き取りと交換に、報徳食品支援センターからはサンリオのマスクやお菓子類を提供いただいた。
- ④ビーバーリンク@ふらっと茅ヶ崎として、ふらっと若者カフェ（茅ヶ崎市、山北町）、フードバンクひらつか（平塚市）、ねばるばカフェ（茅ヶ崎市）、就労支援センタープラナー（茅ヶ崎市）、湘南つばさの家（茅ヶ崎市）、まちサボ茅ヶ崎（茅ヶ崎市）、地域のお茶の間研究所さろんどて（茅ヶ崎市）が登録。8団体が利用中。現在氷砂糖入りかんぱん、缶入りミニクラッカー、豚ロース串カツ（冷凍）、豚ロースたまねぎ串カツ（冷凍）を提供。6団体が利用中。茅ヶ崎高校定時制や、藤沢白浜養護学校、キッチンカーで子どもへお弁当を無料支援するリアルや市内の子ども食堂からも提供希望があり、登録説明を随時行っている。
- ⑤ビーバーリンク@港北として、7月10日より横浜北センターで正式支援を実施。活用団体は、支えあいの会（西区）、MGMプロジェクト（港北区）、関内まちづくり振興会（中区）おもしろカンパニー（南区）、六角橋こども食堂（神奈川区）、満福こども食堂（栄区）が利用している。2月より大倉山でコミュニティカフェを運営していたが、ひとり親支援に切り替えた大倉山ミエル、障がいの持つ子の支援TITINA大倉山相談室が加わり、より食品の必要性が高まっている。
- ⑥みんなの居場所びすた〜りの拠点を活用してセカンドリーグが運営するビーバーリンク@茅ヶ崎南湖の活動を10月より開始。参加する地元の高齢者、ひとり親、障がい者の方への食品支援を始めた。

- ⑦ビーバーリンク@金沢として、6月4日からスタート、金沢こども食堂すくすく（金沢区）、よこすかなかなかや（横須賀市）、神奈川フードバンク・プラス（中区）、となりのレストラン（横須賀池上）、もりのお茶の間（金沢区）すまいるこども食堂（磯子区）6団体が登録、利用中。：10/30、となりのれすとらんが支援として受け取られたリングをビーバーリンク金沢の団体に提供いただいた。使い切れない食品を持ち込み、それぞれがシェアすることで、ロスも減らし有効に利用できることにつながる。湘南信用金庫からの防災備蓄品では、各店舗の引取りの協力と保管、それぞれでの活用をお願いした。
- ⑧ビーバーリンク@戸塚：パルシステム神奈川横浜中センターでの開設を10月からスタート、おもいやりカンパニー、ほっこりこども食堂、満福うえのまちこども食堂が登録、がんばるママ交流会用としても青果を運び込んでいる。
- ⑨ビーバーリンク@木月：フードバンクかながわの配送拠点で、引き渡しを行っている。常温食品を拠点で、冷凍品などは必要に応じて宅急便で送付する。木月こどもキッチン、まきまきキッチンが利用。
- ⑩ビーバーリンク@平塚：こども食堂からの要望により、新たに2月より開始。県西地区の支援拠点として小田原の報徳食品支援センターとの連携により、双方の食品のシェアや、情報交換も行っている。子育ての輪LEI、茅ヶ崎南湖こども食堂波、報徳食品支援センター、フードバンクひらつかが登録されている。報徳食品支援センターからもビーバーリンク用にと、サンリオ商品のマスクやお菓子等を提供いただき、各団体に引き渡しを行った。
- ⑪ビーバーリンク@睦町（2021年4月より開始）：横浜市睦町ケアプラザより相談があり、睦町地区で活動するこども食堂や母子寡婦支援施設への食品支援を実施。横浜市内の拠点として配送センターに限りがあるため、ビーバーリンク鶴見と同じセンターで日時を変えて実施する。同地区でのフードバンクの立ち上げの協力に向けて打ち合わせを実施中。子ども食堂の他、社会福祉法人も加わる予定。
- ⑫ビーバーリンク@相模原：相模原で食品支援を実施しているフードコミュニティの中臺さんからの相談で、これまでもパルシステムから青果を提供いただいていたようだが、直接提供が終了に伴い、ビーバーリンクで引き継ぐ形で青果引き渡しを予定。他の子ども食堂なども利用できるようにしていく。

【空き家活用】

- ・みんなの居場所びすた〜りとして、運営団体「サンチャイ・ネパールねばるば」で準備。コロナの影響はあったが、6月より準備を開始、近隣に配布するチラシを作成し、近隣へは大家さんより配布してもらった。9月1日開所した。
- ・空き家活用の運営の工夫として、当法人が大家と運営主体者である、ねばるばとの間に入ることにより円滑な運営ができています。日報を活用することで、タイムリーに対応ができる。また大家・ねばるば・当法人の3者で物件について調整した事項や気づいたことなどを一覧にして共有している。
- ・空き家対策行政実務者会議での資料報告をもとに、川崎市まちづくり局住宅政策部住宅整備推進課より、茅ヶ崎市都市政策課に、茅ヶ崎南湖の物件視察と取組み内容について問合せがあり、経過説明と運営上の工夫などの説明対応を行った。

【自主企画（がんばるママ・若者カフェ）】

- ①がんばるママ交流会
- ・緊急事態宣言中は、開催せず、食品を宅急便で引き渡しを実施するなど、

	<p>対応した。カナ・カモミールを見て参加された方が新規で3名、個別相談では専門性が必要な内容もあり、当法人とかかわりのある支援団体につなぐなど対応を実施した。感染予防を徹底した交流で、クラフトや占いなど当法人の会員に協力いただいて、ゆっくり気兼ねなく過ごせる場所をつくった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 紙しばいやもっちいのオンライン紙芝居に無料参加も継続して案内した。 <p>②若者カフェ</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月までの若者カフェは、コロナにより休止としたが、若者カフェに参加していた支援側でもあり当事者でもある若者が、山北町の空き家を活用したコミュニティを始め、現在若者が集う場となっている。そちらに食品支援を継続して実施している。びすた〜りでも検討している。 若者ギター教室は、通常に企画が出来るまではインターネットで学ぶ形に切り替え実施。 <p>③ビーバーリンク協力状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ビーバーリンクの運営協力団体：パルシステム神奈川、野口食品、ヴェスティ・フーズ・ジャパン、横浜信用金庫、加瀬倉庫、ニッコー、一蘭、横浜岡田屋、湘南オフィス・サービス、食品ロス・リボンセンター、湘南信用金庫、武松商事、キリンビール、三井アウトレットパーク、NPO法人ハマのトウダイ、株式会社ホテルニューグランド、京浜急行電鉄株式会社、株式会社駿河屋本舗、JA神奈川県中央会。
(3)実績・成果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> 茅ヶ崎の空き家活用が具体化し、9月1日よりオープンしたことが大きな成果である。食品コーディネーターが定着し、ビーバーリンクを通じフードバンクや子ども食堂、支援団体に対し、支援することができた。支援活動の現場が地域に増えることで、さらにネットワークが広がる結果となった。